

1 本園の教育・保育目標

仏教精神による宗教的情操教育を基盤として、豊かな心を育てる教育・保育を行う
 動と静の調和から、ぬくもりのある感性を育てる

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

灘分地区が出雲市同和教育研究指定事業推進地区として指定されて2年目であり、まとめの保育を実践する。
 保育の質のさらなる向上に向けて、園内研修に取り組み、園外研修の受講も増やしていく。

3 評価項目及び取組状況

評価項目	取組状況
教育・保育内容の見直しと構築	同和教育推進のため、出雲市同和教育啓発指導員の古川先生に何度も来園いただき、指導を受けた。職員研修・保護者研修、そして公開保育と、1年を通して学びを深めることができた。 1歳児・2歳児の保育も、ひとりひとりを理解し、寄り添うことで、育ちを支援していくことができる保育を心掛けた。
地域との交流を図る	地域の高齢者の方との交流は、今年も笹巻会と餅つき会で行った。 年長児は近くの高齢者福祉施設を訪問し、ゲームをしたりおしゃべりをしたりして交流し、喜んでいただけた。 認定こども園の重要な役割として、地域の子育てに深くかかわる点があるが、この点に関してはまだまだ不十分である。
支援教育の充実	特別支援が必要な園児については、教育委員会や小学校、療育関係の施設と連携を図り、園児にとってより良い支援方法を探った。

4 総合的な評価結果

3～5歳児の保育内容については、同和教育の研究主題として「自分の力を発揮し、主体的に生活を楽しむ子どもをめざして」を掲げ、園児ひとりひとりの理解に努めると同時に、環境構成と援助のあり方を追求することができた。その成果として、「実践のあゆみ」にまとめることができた。園外研修の受講もしっかりできた。

1・2歳児の保育については、一人ひとりの成長を記録し、サポートすることができた。

1・2歳児と3～5歳児では成長に大きな相違があり、そのための環境づくりをこれからも更に図っていかねばならない。異年齢の交流は、園児一人ひとりの成長にとっても良い刺激を与えている。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
遊びの環境の充実を図る	主体的な遊びをより充実させるため、年齢に応じた環境整備を更に進めて、園児の育ちにつなげていく。特に砂場や室内のコーナー遊び。 来年度は新園舎が完成するため、充実できると考えている。
新制度の認定こども園としてのあり方	新制度を更に深く理解し、協議時間を確保しながら、全職員が協力して教育・保育の具体的実践に取り組む。特に地域との連携。
安全管理について	園庭への車の進入防止や遊具の定期的な点検など、安全管理や事故防止について、全職員が日頃から配慮していく。 新園舎では、これまでの課題が解決できるように取り組む。